

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：32413

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653235

研究課題名(和文)自然観察場面における乳幼児間インタラクション成立にかかわる養育者の役割

研究課題名(英文)The role of mother to raise interaction among infants: naturalistic observation in child-support center

研究代表者

椋島 香代(Kabashima, Kayo)

文京学院大学・人間学部・教授

研究者番号：00383307

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：乳児の発達状況によって母親の果たす役割は異なる。乳児が自力で移動することができない発達段階にあつては乳児が周りを見渡せるような抱き方をする、乳児の気に入りそうな玩具を示す、乳児の視線をとらえて関心のある方向を見せたり玩具を持って来るなどの働きかけを行う。はいはいが可能になると安全な環境がつくつろいだ雰囲気の下では乳児自身の探索行動を妨げず見守ることが多い。1歳半頃からは友達への関心を引き出すことがみられる。しかし、その行動は母親自身の他児への関心の度合い、社会的技能、母親間の人間関係などの要因が影響する。さらに、親子が過ごす物的・人的環境の要因も影響があることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of study is the role of mother to raise interaction among infants(Age of 0-3 years)under naturalistic observation method. We observed in child-support center,where mothers and infants can play freely. When infants can't move themselves, mothers hold their babies to watch circumference and show them toys, and they notice infants' interests. Infants have learned to crawl, mothers watch over their exploration under safety environment and relaxed atmosphere. Mothers bring out attention to friends from about 18 months, but a condition under which behavior occurs involved in some factors, the degree of other children, the level of social skill, the human relationship of mothers.

研究分野：幼児教育学,保育学

キーワード：母子相互作用 環境要因 探索行動 人間関係

1. 研究開始当初の背景

母子相互作用、保育場面における乳幼児間のインタラクション各々の研究はあるが、養育者が介在する場での乳幼児の仲間関係についての研究はみあたらない。これまでも母子各々の個人差、関係性が乳幼児の社会的行動に影響を及ぼすことは知られているが (Lieberman 1977, Easterbrooks and Lamb 1979)、乳幼児の外界への興味、関心の程度をとらえながら養育者の働きかけがどのように機能しているかを明らかにする点において新奇性を持つ研究である。また別側面から述べると、乳幼児の社会的行動に対して養育者がどのようにサポートするかによって乳幼児の仲間とのインタラクション経験に差異が出ると予想される。昨今、子どもたちのコミュニケーション能力の低下が問題視されているが、その初期段階の実態を明らかにすることで乳幼児の個人差に配慮した援助の方略、乳幼児が最も影響を受けやすい養育者への支援のあり方を検討することが可能となる。

さらに研究方法についても新たな視点を提供するものである。愛着対象である養育者(主に母親)と共に仲間がいる環境に入った乳幼児の行動を分析対象とし自然観察により環境要因を多面的に分析していく。保育実践の場における乳幼児の社会的行動についての研究の深化が求められている(岩立 2002)。本研究では乳幼児自身が情緒の安定した状態で環境にどのように働きかけていくかを観察、分析できるフィールドを有することが大きな特徴である。文京学院大学保育実践研究センターは0 - 2歳児とその保護者のための子育て支援施設である。「だれもが主体的にかかわる場に」という理念の下、乳幼児の行動に対する制限を極力排除し、自由な探索行動を保障している。以下のような特徴を持ち、本研究のフィールドとして有効な場である。

1) 在宅育児の0歳児にとっては初めての仲間集団との出会いの場である。

2) 親子が自然にかかわる場であり、親子共に日常の状態、関係性を維持しやすい環境である。

3) 集団が固定化していないため親子で初対面の人に出会う機会が多く、新奇場面に対応する際の行動特徴をとらえやすい。

4) できるだけ乳幼児の行動に制約を加えないため、乳幼児個々の自然な探索行動、インタラクションを観察することが可能である。

5) 常時新規利用者がおり、初めての場や人への対応について観察する機会が多い。

以上のような特徴をもつフィールドはほとんどない。このような場で乳幼児のインタラクションに関する資料収集を行うことは乳幼児の社会的行動発達の様相を理解する上で意義は大きい。

さらに、本研究において乳幼児の状態と養育者の行動を分析することは、養育者、乳幼児各々の個性と関係性に注目しながら支援する方略を明確にするための資料としても有効である。養育者が乳幼児の社会的行動萌芽に果たす役割を明らかにすることは今後の子育て支援検討へ寄与するものと考ええる。

また本研究は乳幼児保育現場に対しても貢献できるものである。保育現場で乳幼児の人間関係を育てる試みが工夫・実践されているが、保育者自身が経験的知識、方略に依存し客観的な資料等で検証する試みが不足している。保育実践現場は多くの要因がからむ環境下にある。日常的な場面における環境要因を整理すること、乳幼児の行動を分析すること、その中での客観的な乳幼児の発達の様相を蓄積することは急務である。本研究では情緒が安定した乳幼児の主体的行動を自然観察によって分析対象としておりその資料の価値は大きい。保育実践において保育者の人的環境のあり方を検討する上で重要な資料を提供できるものと考ええる。特に乳児保育の増加に伴い保育実践場面における乳児を研究的視点でとらえる意義は大きい。保育環境の様々な要因を整理し、人的環境の特徴との関連で考察することは今後の保育研究および発達研究に寄与する。

2. 研究の目的

自然観察場面で乳幼児のインタラクション成立過程に養育者が果たす役割を明らかにする。乳幼児は、母子関係を基盤にしながら

ら徐々に身近な環境へ働きかけを始めるが、仲間に対してどのように関心が生まれかわり始めるのか、それらに対して養育者がどのような役割を果たすのかを親子が複数で過ごす場において自然に行動する姿を観察・分析し明らかにしていく。具体的には

(1)養育者のコミュニケーションスキルの特徴や日常生活の実態

(2)0歳児から2歳児までの乳幼児が仲間に対しての追視、凝視など他者への関心を示す場面

(3)乳幼児間のインタラクションが生起するまでの過程

(4)乳幼児間のインタラクション生起に養育者が果たす役割

という各側面について分析し、養育者が乳幼児のインタラクション成立に及ぼす役割を研究する。結果を踏まえ、乳幼児の特徴や養育者との関係の特徴を踏まえた社会性発達への支援のあり方を考察する。

3. 研究の方法

観察環境の設定と観察対象 武井・平(1985)では、実験室で2組の親子を出会わせ、養育者のかかわりを極力制限した上で、乳児の物や他児とのかかわりを観察している。しかし、複数の親子が過ごしている自然場面で他児 対象児 養育者の三者間で展開するダイナミクスの在り様を明らかにすることが本研究の目的かつ独創的な点であるため、観察の場は対象児が養育者の庇護のもと安全で自由に探索行動ができ、他児とのインタラクションが自然に生まれる場であることが望ましい。そこで、地域の親子に開放され自由に利用できる子育て支援施設を観察の場とする。当施設に初めて来所する0歳児とその養育者に協力を依頼する。降所時に追跡調査への協力を依頼し、承諾を得られた親子には継続して観察する。子どもの心身の発達に応じて変容する養育者のかかわり

を捉える。調査終了時の平成26年度には男女児各5組(計10組)程度の親子からの継続データが得られるよう、本年度は可能な限り多くの協力者からデータを収集する。

観察方法 本調査は事象見本法の形をとり、対象となる親子には自然に好きなように過ごすよう依頼する。対象児と他児とのインタラクションへの養育者の関与の在り様を捉えるためには事象前後も記録する必要があるため協力の承諾が得られてから降所までを観察する。観察記録には映像と手記を併用する。映像では言語によるコミュニケーション手段を確立していない乳児の追視、凝視、指差し、発声、接近等の多様な動きを手持ちカメラ1台と固定カメラ3台を用いて記録する。手記では映像に入らない周囲の状況や他児親子の様子を補足的に記録する。記録方法について訓練を受けた研究協力者(学生)が映像記録を担当し、椋島と森下は手記記録を担当する。

分析方法 録画したデータから乳幼児が他児に関心を示した場面を抽出し、対象児が他児へ関心を向けるまでの養育者の働きかけ、養育者の働きかけに対する対象児の反応、対象児が関心を向けられた他児の反応、 に対する対象児の反応、 に対する養育者の対応を逐語録に起こし、養育者の働きかけを特徴ごとに分類し、カテゴリを作成する。さらに、養育者の働きかけのカテゴリごとに子どもの反応パターンを分析する。なお、逐語録の作成は研究協力者(学生)が行い、カテゴリの作成は研究代表者と分担者が協議して行う。

質問紙調査 観察調査と並行して、母親に対して質問紙をもとにした調査を実施する。施設の特徴により、途中から方法を修正した。1年目の調査では宿題型の手続きをとり、来所時に配布し、次の来所時に提出するよう求めた。2年目以降の調査では対面型で研究協力者による聞き取りを行った。調査内

容は以下の通りである。 家族構成等の属性、 他児とかかわる機会、 育児のサポート源、 養育者の社会的スキル、 子どもへの期待、 母親の自己肯定感の5点について尋ねた（ については2年目以降の調査に追加した）。

4. 研究成果

4-1 調査概要

【観察期間】2012年6月～2014年7月

【観察場所】大学内子育て支援施設。

対象：大学近隣在住の0～満3歳までの乳幼児と保護者

状況：開所時間内は入退室自由であり、季節や天候にもよるが開所日1日につき10～30組の親子が来所している。日や時間帯によって、利用者の人数や顔触れは変わる。

保育の特徴：「誰もが主体的にかかわる場」という理念の下、乳幼児の行動をできるだけ妨げない保育を行っている。従って、環境の安全性には最大限の注意をはらい、物的環境については吟味をしている。保育者は3名が常駐し見守りを基本とするが、必要に応じて乳幼児と遊んだり、母親への働きかけを行ったりする。遊具等は乳幼児の発達状況を考慮し、安全面、経験面で優れたものを選び、設置方法も子どもが主体的に出して遊びやすいよう配慮している。

【収集事例】エピソード記録として151事例を収集。養育者はすべて母親の事例であった。

4-2 観察結果から

乳幼児が外界への興味・関心を生起するための母親のかかわりについて、以下の点が明らかになった。

1) 母親は、乳幼児の運動発達段階によって働きかけが異なる。乳児が寝返りなどもできない時期には、母親は周囲が見えるように抱く、床に寝かせている時には、乳児と視線を合わせて母親と乳児が相互作用をする、乳児が好みそうな遊具を選び子どもに見せる、音が鳴る物は音を刺激として乳児の追視を促

すなどを行う。周りを見せながら、他の子どもの様子を言葉で表して話しかける等も行う。同じくらいの月齢の子どもを持つ母親同士で会話しながら、お互いの乳児同士を引き合わせ乳児が顔を見合わせるができるよう働きかける。

はいないなど乳児が移動行動を獲得すると、母親は乳児の探索行動を危険のないよう配慮しながら見守る。自由に歩いて遊んでいる幼児と接触しないようにしたり、他児が遊んでいる遊具に手を出そうとした時には別のものに誘導したりする。この場合には乳幼児間の相互作用はむしろ妨げられる。つまり立ちや一人歩きなどの運動発達を促すための働きかけも行う。歩行が可能になると、母親も他児の行動にも目が向け場を共有したり、幼児間のかかわりの生起を見守ったりことも出てくる。但し、物の取り合い、他児の遊びを邪魔しないようにするなど起こらないようにする配慮は変わらない。母親同士が知り合いの幼児には関心をもち、仲立ちをするなどの行動がみられる。また幼児同士をできるだけ近くで遊ばせるように配慮する。養育者が共にいる場での幼児間の相互作用には養育者間の人間関係が影響すると言える。特に母親は、親同士の互いの人間関係を優先し、幼児間のトラブルなどは回避する傾向がある。

2) 母子の相互作用には環境の影響もあると考えられる。観察フィールドは、安全面で配慮された空間である。母親への質問紙調査結果でも場の安全性に対する信頼感が大きいことがわかっている。（『保育実践研究センター活動報告書』（平成24年度、平成25年度、平成26年度）また、施設の理念についても初回利用時に職員が乳幼児の主体的行動を大切にしよう丁寧に説明している。母親は、乳幼児の行動を見守るということを優先し、さまざまな経験を母親が提供することはむしろ抑えているということも考えられる。こ

これらの母親の配慮については、今後の課題である。

また、施設内には、遊具が豊富に用意され、物を介在とした乳幼児間のかかわりは生まれにくい状況にあるともいえる。乳児個々がそれぞれ使いたい遊具を手に入れ、遊ぶことが可能だからである。また、このことは乳幼児がゆったりと一人遊びを堪能できるような環境下にあるといえ、その場合においては、乳幼児も安定して集中して遊ぶため、母親はそれを見守るといことが多い。従って、乳幼児間の相互作用は起こりにくい状況になるともいえる。

観察フィールドはその日によって利用者の顔触れも変わり、初対面の親子に出会うことも多い。従って、母親間ではお互いの理解が薄いため、幼児間のインタラクション生起を積極的に働きかけることは少なくなるともいえる。特に、乳幼児間のトラブルに発展しないよう事前に回避する傾向は強く、養育者が介在する場での乳幼児間の相互作用生起には養育者間の人間関係の様相の影響があるといえる。

このように養育者が乳幼児間の相互作用生起に役割を果たすには、物的環境や人的環境（特に養育者間の人間関係の構築状況）の要因を配慮すべきであることが明らかになった。

3) 母親自身の社会的技能が乳幼児間の相互作用生起にも影響する。母親が他児へも関心があり、働きかけることによって乳幼児のかかわりが生起する、他児の遊んでいる場にわが子が行った場合に母親が相手の親子へ声をかけたり、働きかけをしたりすることにより、場を共有しそれが乳幼児のかかわりへ発展するなどがみられる。母親が他児へ働きかけるのを乳幼児がみていて、他児への関心が育っていくことが考えられる。また、母親の働きかけをモデルとして社会的技能について理解することもあろう。母親自身の人

への関心や社会的技能の高さが乳幼児間のかかわりに寄与するといえる。今回の研究では、母親の社会的技能の状況について把握することを行わなかったため、十分な要因の考察には至らなかったが、因子として考慮すべきことである。今後、継続利用者に対しての協力をあおぐなどして、母親自身の社会的技能についての調査も行いたいと考える。

4 - 3 母親の認識に対する調査から

【収集したデータ】質問紙調査（1年目）および聞き取り調査（2年目以降）より得られたデータは全28部であった。

【結果と考察】

1) 子どもの人や物とのかかわりに対する母親の認識：月齢を問わず、母親は子どもが身近な世界とかかわる姿を肯定的に受け止め、また、かかわる機会をもとうと積極的に子どもが集まる場所にでかけている。子どもが見知らぬ人とかかわる際には、子どもの様子を見守り、緊張や不安を緩和する働きかけをしているといった回答が多く得られた。これらのことから、子どもの人とかかわりを支えようとする母親の姿がうかがえるが、一方で、観察調査では我が子が他児の方へ注意をむけ接近したときに、別の玩具を提示し他児から玩具へ注意をそらすようなかかわりや他児とのいざこざを未然に防ぐような姿も確認されている。これらのことから、母親たちがイメージする「良好な対人関係」が円滑で温かなものであること、そうした対人関係を我が子が築けることを望んでいることが推測できる。

2) 母親の対人スキルおよび自尊感情

今回、得られたデータが少ないため統計的な処理は難しいが、観察された母子のインタラクションの特徴と母親自身の対人スキルまたその規程因と考えられる自己肯定感との関連はあると推測される。その調査方法も含め、この点については今後の検討課題として残された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 5 件)

森下葉子、椋島香代 「自然観察場面における乳幼児の関心の生起要因」日本乳幼児教育学会第 23 回大会 2013 年 11 月 23 日 - 24 日

椋島香代、森下葉子 「自然観察場面における乳幼児の関心生起に対する療育者の関わり」日本発達心理学会第 26 回大会 2014 年 3 月 21 日 - 23 日

森下葉子、椋島香代 「自然観察場面における母子相互作用の変容 - 子どもの関心の広がりとそれに対する母親のかかわり - 」日本保育学会第 67 回大会 2014 年 5 月 17 日 - 18 日

椋島香代、森下葉子 「乳幼児と母親の相互交流における環境の影響」日本発達心理学会 2015 年 3 月 21 日 - 22 日

森下葉子、椋島香代 「乳幼児の人・物への関心を中心とした母子間のインタラクション」日本保育学会第 68 回大会 2015 年 5 月 9 日 - 10 日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

椋島 香代 (KABASHIMA, Kayo)

文京学院大学人間学部児童発達学科・教授
研究者番号：003833047

(2) 研究分担者

森下 葉子 (MORISHITA, Yoko)

文京学院大学人間学部児童発達学科・助教
研究者番号：90591842